【付　録】

概要版（パンフレット）

防犯まちづくりのための調査の手引き

犯罪を予防し犯罪不安を減らすためには、多くの関係者が協働して、パトロールやみまもり活動といった「ソフト」と犯罪の起こりにくい物理的環境をつくる「ハード」が車の両輪となった「防犯まちづくり」を継続的に行うことが大切です。そのために、まずは地域の課題をきちんと把握し、解決に向けた道すじをつける必要があります。

この手引きは、地域住民や地域の防犯に関係する活動組織などが地域の課題を把握するための調査手法を紹介しています。

このパンフレットは概要版です。詳細は本編をご覧ください。

独立行政法人　建築研究所

手引きの使い方

地域における犯罪や事故発生状況などの情報収集や関係団体等へのヒアリング、住民へのアンケート、安全マップづくりなどを通して、まちの概況や地域の抱える課題を把握します。

課題を分析･整理したうえで、課題に応じた詳細調査を選択し実施します。調査にあたっては、必要に応じて、自治体、警察、専門家、大学などの助力を得ることも考えられます。

まちの概況を把握する

犯罪及び事故発生状況の情報収集

犯罪及び事故発生状況については、地域を管轄する警察署等にまずは問い合わせてください。

関係団体へのヒアリング調査

防犯まちづくりに関係する団体（自治会・町内会、PTA、防犯協会・交通安全協会やまちづくり関係のNPO団体）などの活動内容、市町村、警察の支援策を調べます。交通安全活動、美化活動、コミュニティ活動など、幅広い視点から地域における既存の物的・人的資源を把握します。

住民へのアンケート調査

アンケート調査によって住民のニーズや犯罪不安などを把握します。

安全マップづくり

地域のどこに危険が潜んでいるかを把握するなど、まちを知るための最初のステップとして、安全マップづくりがあります。

安全マップには、参加者の被害防止能力、コミュニケーション能力、コミュニティへの愛着心の向上などの効果が期待されています 。また、子どもと地域の大人が協働することにより、子どもの非行防止や、大人の子どもを守る意識にもつながります。

作成手順

1 ガイダンス

防犯、交通安全など調査の視点、マップ作りの意義を参加者に学んでもらいます。また、調査全体の流れを説明します。

2 まちあるき

ガイダンスで学んだ視点をもとに、実際にまちを歩いて問題箇所を発見します。子ども 110 番の家や交番など安心できる場所も確認します。必要に応じて、地域の方に突撃インタビューするのもよいでしょう。

3 マップづくり

まず、まちあるきで通ったルートを記入します。目印となる駅や店舗が書かれていない地図の場合は、それらも記入します。
まちあるきで発見した問題箇所を種類別に色を換えてプロット。それらの箇所には、コメント、写真やイラストを添えます。

4 課題の共有

マップづくりで発見した課題を地域で共有するため、発表会を行ったり、冊子にまとめて回覧・配布したりします。
公共施設など多くの住民の目に触れる場所に掲示したり、ホームページに掲載する事例も見られます。

みまもりを量として把握する

みまもり量調査

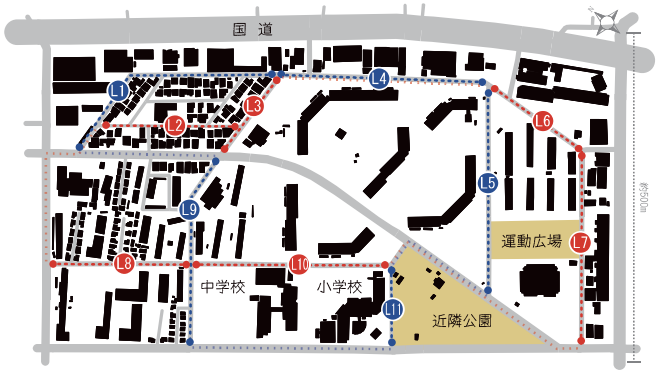
調査目的

歩行者や自転車の往来、沿道での立ち話や花育てなどによってうまれる「みまもり」の量を道路別、時間帯別に把握するための調査です。

調査方法

イベント型 みまもり量調査

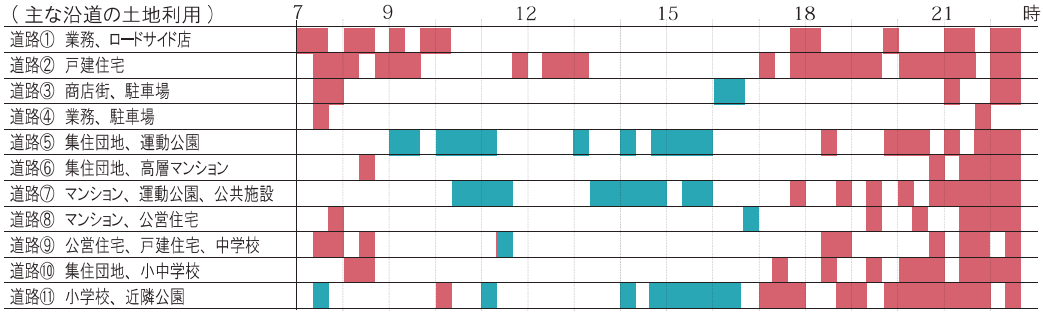
イベント的に大人数で地域全体を調査する方法です。あらかじめ、巡回ルートを設定して、歩きながら調査票に記録することで、時間帯別・ルート別のみまもり量を把握できます。



赤線：ルート１　青線：ルート２　丸文字：リンク番号

巡回ルートイメージ

調査票イメージ



みまもり量 >10 の時間帯
（100m 歩くと歩行者 10 人以上とすれ違う）

みまもり量 <1 の時間帯
（100m 歩いて歩行者 1 人ともすれ違わない）

調査結果イメージ

継続型 みまもり量調査

参加者が都合の良い日・時間に、継続的に行う調査で、Ａに比べて簡易な方法となります。コースを決めて行う方法と、コースは決めずにゾーンで実施する方法があります。

調査	曜日	時間帯	道路番号	出会った人の数
1	月	９時台	②	５人
2	〃	〃	③	２人
3	〃	〃	④	２人
4	水	１１時台	②	３人
5	木	１５時台	②	０人
6	〃	〃	③	１人
7	金	１０時台	①	５人

調査票イメージ

解決に向けて

自分たちでできる取り組み

- みまもりの少ない時間と場所を重点的に行う効率的なパトロール
- 健康増進を兼ねた散歩やジョギング
- 人通りが少ない昼間の玄関掃除や庭いじり
- 通りへの見通しを良くする

行政と協働する取り組み

- 住民による道路や公園、広場の維持管理（アダプト制度）
- 景観舗装やコミュニティゾーン等、楽しく安全に歩ける道路整備によるにぎわい創出
- 広い道路へのベンチの設置や通りに顔を向けたオープンカフェなどによるにぎわい創出

通過交通の量を把握する

車の通り抜け調査

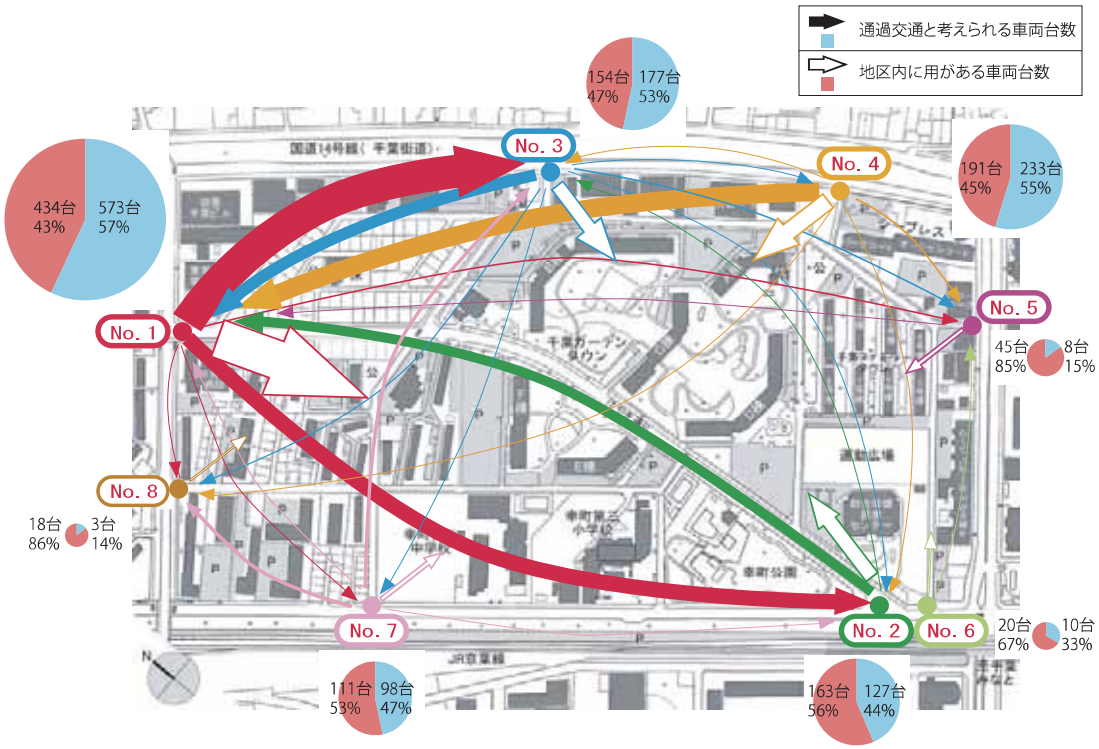
調査目的

地域内を通行する車（自動車）の行動を調べ、地域に用のない通り抜け目的の車（通過交通）の量とその出入り箇所を把握するための調査です。

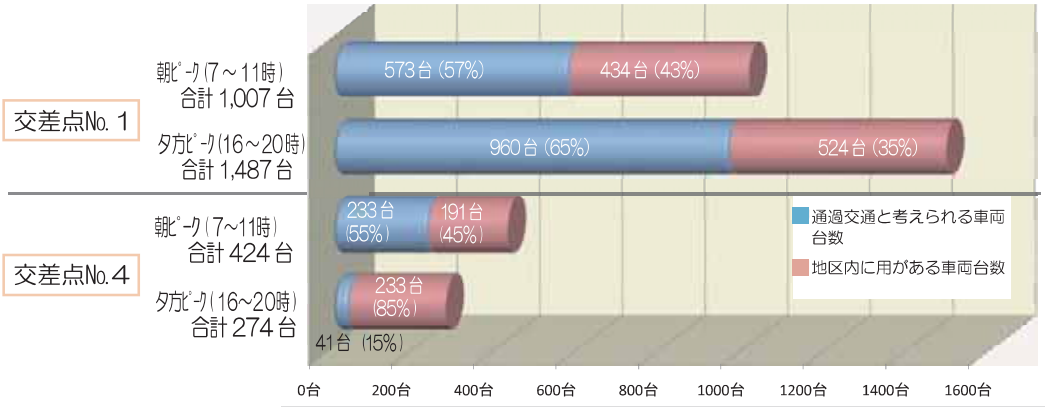
調査方法

ナンバープレート調査

地域に入る車と出て行く車のナンバープレートと出入りの時刻とを記録して、出入り箇所と地域内での滞在時間を把握します。通過交通であるかどうかは滞在時間で判断します。



調査結果イメージ（朝ピーク時（7-11 時）の通過交通の状況））



調査結果イメージ（交差点No. 1 とNo. 4 の通過交通の時間帯別比較）

解決に向けて

自分たちでできる取り組み

- 時間通行止め等の規制の徹底（馬出しなど）
- ビラ配布によるドライバーへの啓発
- ゆっくり走ろう運動の推進
- 駐車・駐輪調査の実施

行政と協働する取り組み

- 交通規制の実施
- ハンプや狭さくの設置など道路の改良工事やコミュニティーゾーン等の面的交通対策による交通静穏化

くらがりの原因を把握する

くらがり調査

調査目的

地域住民が暗くて不安に感じている場所を把握したり、街灯の維持管理の問題やあかるさの不足、明暗の差など、くらがりの原因を把握したりするための調査です。

調査方法

地図を使ったアンケート調査

30 m程度のメッシュの地図を使い、不安な場所や危険な場所、暗いと感じる場所を記入するアンケートにより、くらがりを調べます。

メッシュ地図のイメージ

くらがり診断アンケート調査（　　中学校区）

別紙図面は、あなたがお住まいの地域をメッシュ（網の目）に区分したものです。それぞれのメッシュには、A-1のように番号（メッシュ番号）が付けてありますので、下の回答用紙のそれぞれの回答欄に、あなたが選んだ場所のメッシュ番号を記入してください。

問１　暗がりを明るくすることにより、チカン、ひったくりなどの犯罪やシンナー、喫煙などの少年非行に関する不安を解消して、安心して暮らすことができると思われるのはどこですか。

問２　暗がりを明るくすることにより、交通事故や転倒などの危険を防止できると思われるのはどこですか。

問３　その他、暗くなってからよく利用する道路などで、暗いと思われるのはどこですか

――――――――――――――― 切取り線 ―――――――――――――――

回　答　用　紙

	記入例	回答欄	回答欄	回答欄
問１　強く不安を感じる場所	A－17			
問２　危険を感じる場所	B－19			
問３　その他日常暗いと感じる場所	G－18			

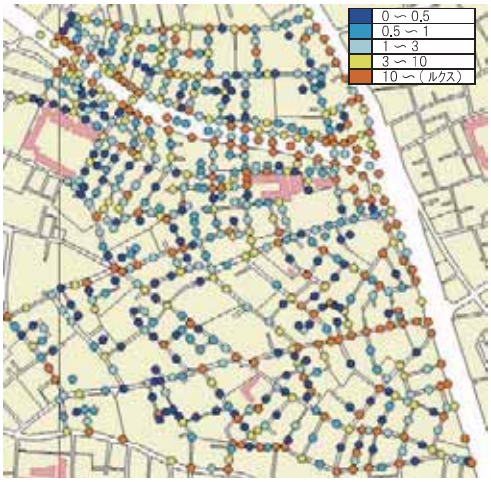
ご協力ありがとうございました。

愛知県春日井市によるくらがり診断

照度調査

照度計を使い道路の水平面照度を実測することで、明るさを客観的に判断できます。主観調査をあわせて行うことで、地区独自の明るさの基準が設定できます。

埼玉県三郷市鷹野東町会と芝浦工業大学三浦研究室による照度調査
資料：芝浦工業大学三浦研究室



東京都板橋区Ｓ小学校区における照度調査
出典：地域安全マップにみる住宅地における犯罪不安箇所の空間特性
H17年度国土交通省国土技術研究会　樋野公宏

解決に向けて

自分たちでできる取り組み

- パトロール等を利用した日常的チェック
- 一戸一灯運動の推進

行政と協働する取り組み

- 必要な場所に防犯灯などの街灯を増設
- 消えている電球などの交換
- あかりをさえぎる街路樹の剪定
- グローブが汚れた街灯などの清掃
- 公的施設等の明るさ確保

公園の問題点を把握する

身近な公園調査

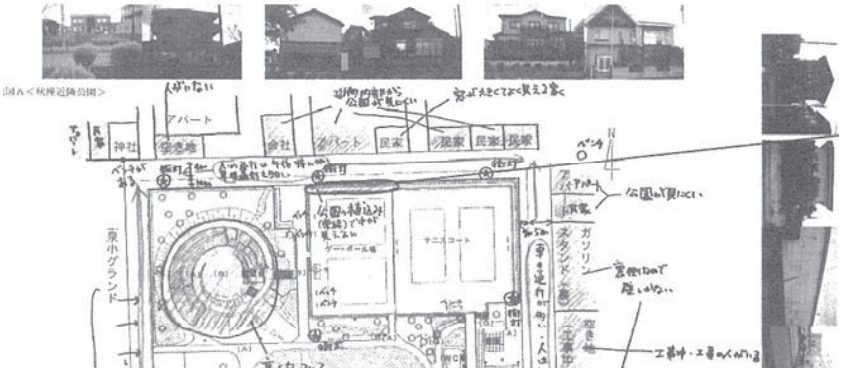
調査目的

身近な公園を対象に、管理が不十分でゴミが散らかっている、植栽が必要以上にしげっている、住民にほとんど利用されていないといった問題を把握するための調査です。

調査方法

公園および周辺の防犯診断

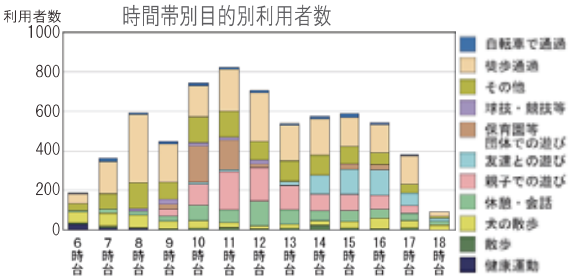
調査グループを作って、実際に公園を歩きながら防犯上の問題点や良い点を調べます。



まとめ方の例（母親クラブによる親子でつくる地域の安全な環境づくり事業調査報告書（平成19年）全国地域活動連絡協議会（2007）より引用）

公園の使われ方調査

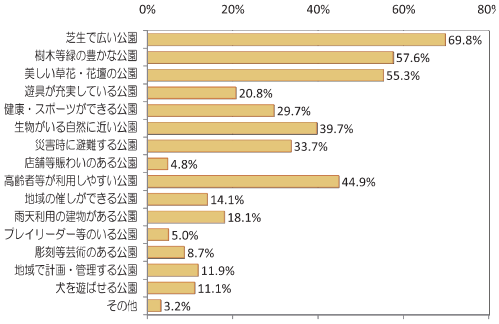
一日のうち、いつ、どのような利用者が、どのような目的で公園を訪れているのかを観察と利用者へのインタビューによって把握します。



まとめ方の例（公園は今、大都市都市公園機能実態共同調査実行委員会編、日本公園緑地協会（2003）より引用）

公園に対する住民等の意識調査

公園の近隣に住む人、管理に携わる人、近くを通る人など、公園に関わる様々な人々の公園に対する意識や意向をたずねます。



まとめ方の例（公園は今、大都市都市公園機能実態共同調査実行委員会編、日本公園緑地協会（2003）より引用）

解決に向けて

自分たちでできる取り組み

- 住民による公園の維持管理（アダプト制度）
- 各種イベントの開催などにより利用を増やす
- 公園を周囲から自然にみまもることができるよう工夫する

行政と協働する取り組み

- 自治体が策定している防犯指針の活用
- 公園の設計を住民のニーズに合わせて変更
- 公園のパトロール
- 公園灯の設置

次の展開に向けて

計画的な防犯まちづくりへ

犯罪・事故の発生箇所と安全マップと重ねてみると、なぜその箇所で犯罪や事故が発生したのか、その原因が見えてくるかもしれません。

さらに、各詳細調査の結果を表した地図を重ね合わせることによって、犯罪や事故の発生原因や、重点的に対処すべき箇所が見えてきます。

短期的には、問題箇所を避けるように注意喚起したり、パトロールを重点化したりすることもできますが、長期的な視野に立って「防犯まちづくり計画づくり」にステップアップすることをお勧めします。防犯まちづくり計画には、将来的に取り組むべき事項が役割分担とともに幅広く記載されます。このなかに防犯灯の増設や植栽の維持管理なども含め、ソフトとハードが車の両輪となった防犯まちづくりにつなげてください。

防犯から総合的なまちづくりへ

防犯だけを追求することが必ずしも総合的に優れた生活環境を作ることになるとは限りません。例えば、見通しを確保するために樹木を全て伐採した公園は、防犯性が上がったとしても、憩いの場としての機能を損なっています。分野間のトレードオフ（二律背反）を考慮するためには、防犯だけでなく、環境、景観、福祉、防災、地域活性化など他のまちづくり分野に視野を広げていくことが大切です。

内容によっては、複数の分野の課題に一緒に取り組むこともできます。商店街のにぎわいづくりは、みまもり量の増加につながりますし、震災時に倒壊のおそれがあるブロック塀の解消は、道路と住宅間の見通しの向上にもなります。

防犯まちづくりを通じて強化されたコミュニティは、地域が抱える様々な課題を克服する力も持つことでしょう。

手引きの本編及び概要版の電子データは、下記ＵＲＬから入手できます。
発行元　独立行政法人建築研究所　住宅・都市研究グループ
住　所：茨城県つくば市立原１
ＴＥＬ：０２９－８６４－２１５１（代表）
ＵＲＬ：http://www.kenken.go.jp/